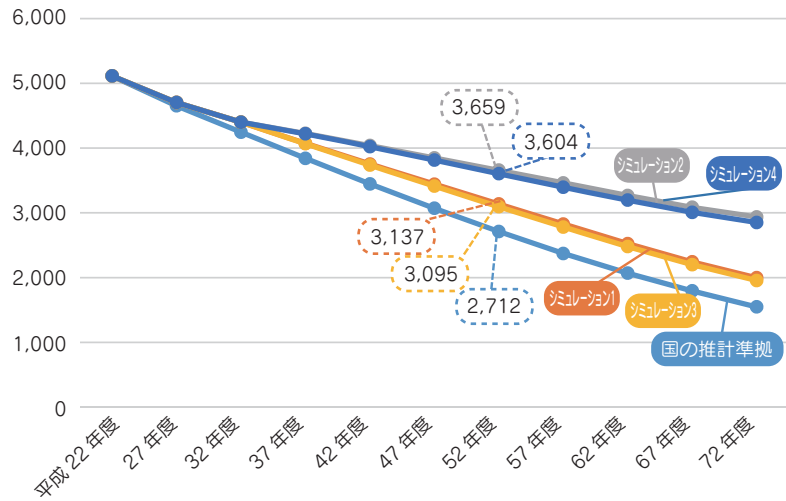


人口の将来展望

1. 将来人口の推計

- ・国（国立社会保障・人口問題研究所）の推計によると、今後全国の移動率が一定程度縮小すると仮定した場合には、人口は平成 52 年には 2,712 人になります。
- ・今後、自然減、社会減の両面から町民とともに、若者世代の就労と、結婚・出産・子育ての希望の実現や観光資源活用、若者等の定住支援、さらには、コンパクトなまちづくりなど効果的な各種施策を推進することにより、平成 52 年時点で 3,000 人～3,600 人の人口が維持される見通しです。
- ・高齢者人口は減少傾向にありますが、高齢者割合は当面は上昇し、平成 57 年頃より下降していくと推計されます。



シミュレーション 1：平成 52 年の人口 3,137 人

自然動態（合計特殊出生率）平成 42 年 1.8、平成 52 年 2.07

社会移動（純移動数）は国の推計に準拠

シミュレーション 2：平成 52 年の人口 3,659 人

自然動態（合計特殊出生率）はシミュレーション 1 と同様で社会移動（純移動数）を均衡（= 0）させる

シミュレーション 3：平成 52 年の人口 3,095 人

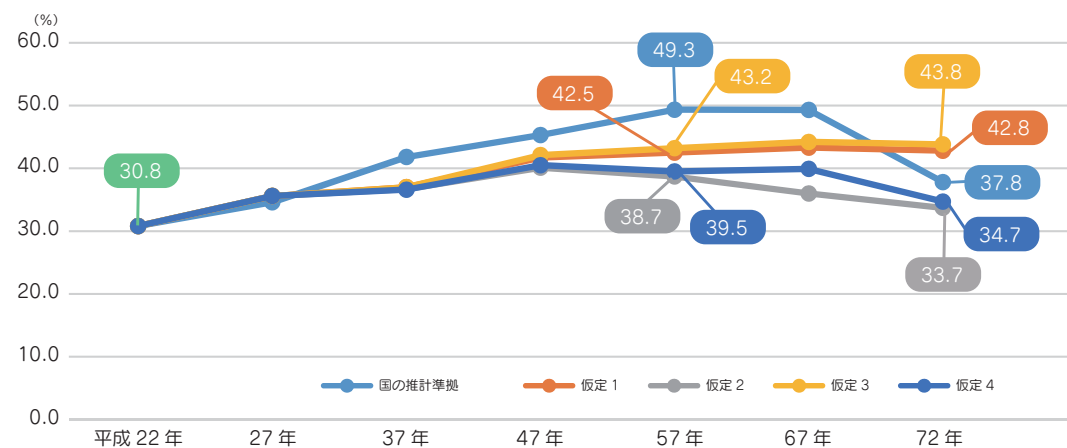
自然動態（合計特殊出生率）平成 52 年 1.8、平成 62 年 2.07

社会移動（純移動数）は国の推計に準拠

シミュレーション 4：平成 52 年の人口 3,604 人

自然動態（合計特殊出生率）はシミュレーション 3 と同様で社会移動（純移動数）を均衡（= 0）させる

高齢者人口割合の推移



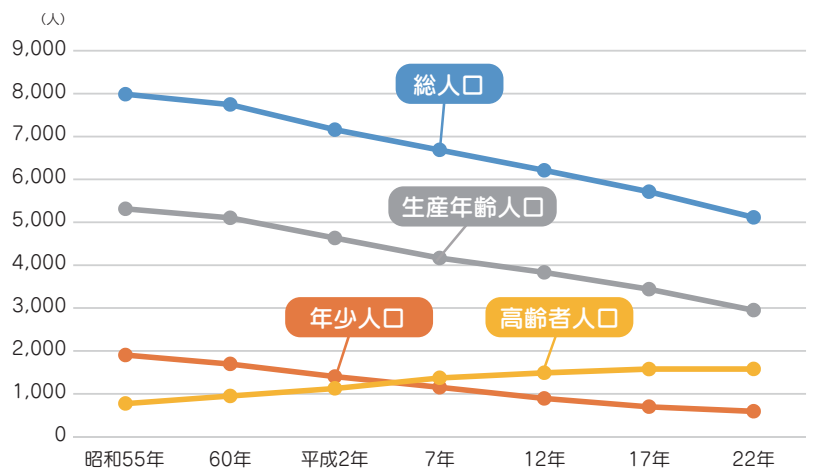
様似町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョンの概要

～ 様似町の人口の現状と展望～

様似町の人口動向

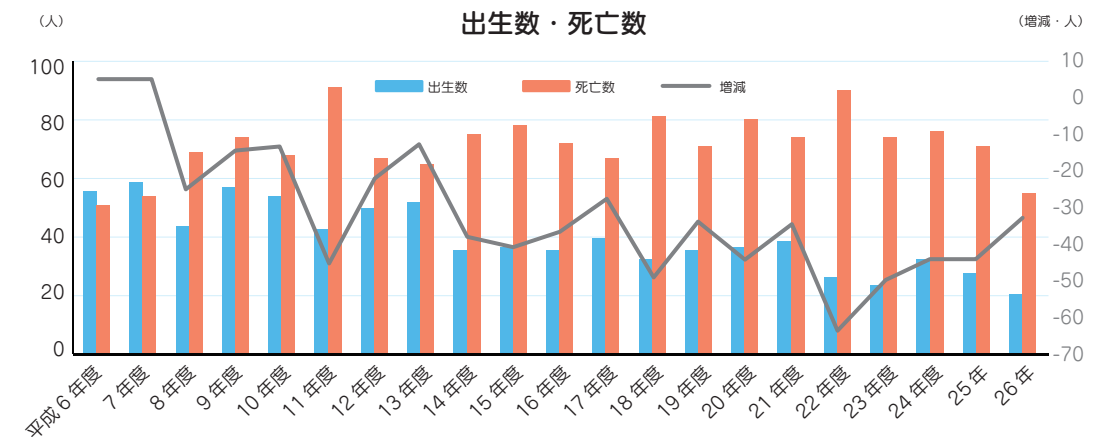
1. 総人口

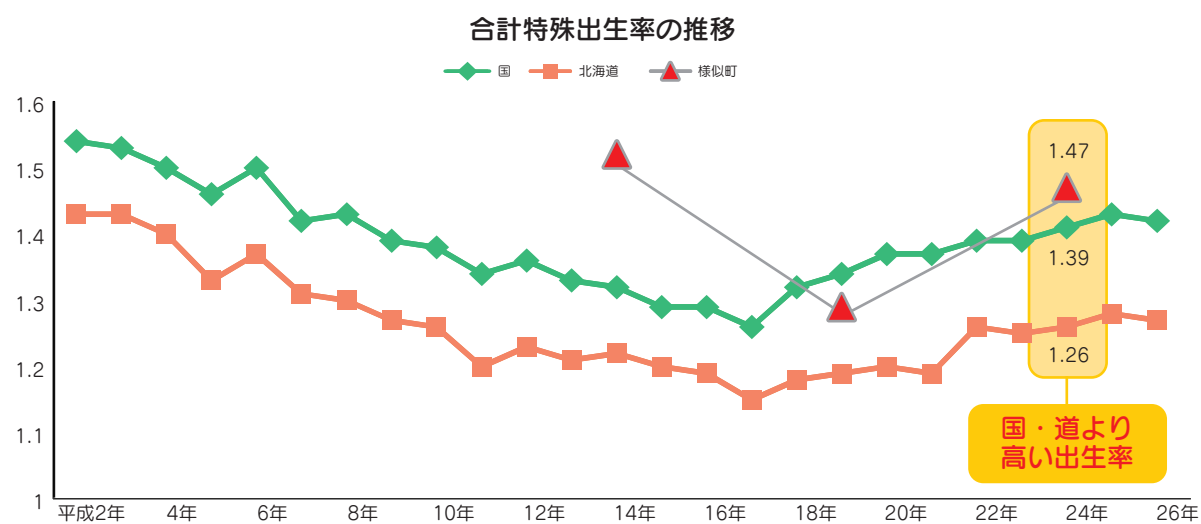
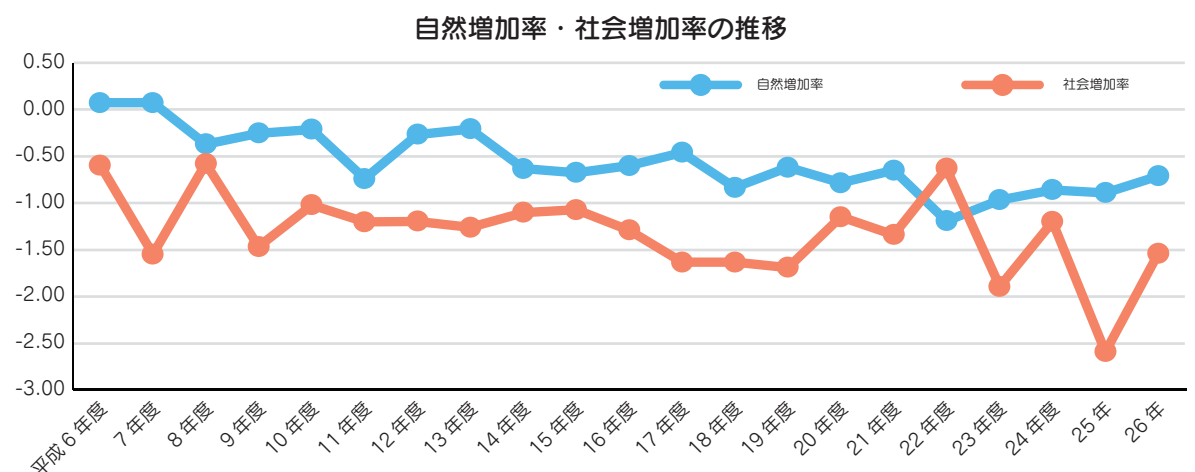
- ・本町の総人口は、昭和 55 年の 7,986 人から一貫して減少傾向であり、平成 22 年では 5,114 人となっています。
- ・この間、年少人口と生産年齢人口は減少し、高齢者人口は一貫して増加し、平成 7 年以降は年少人口を上回っています。
- ・平成 22 年の自然減は 63 人、社会減は 34 人となっています。



2. 自然増減

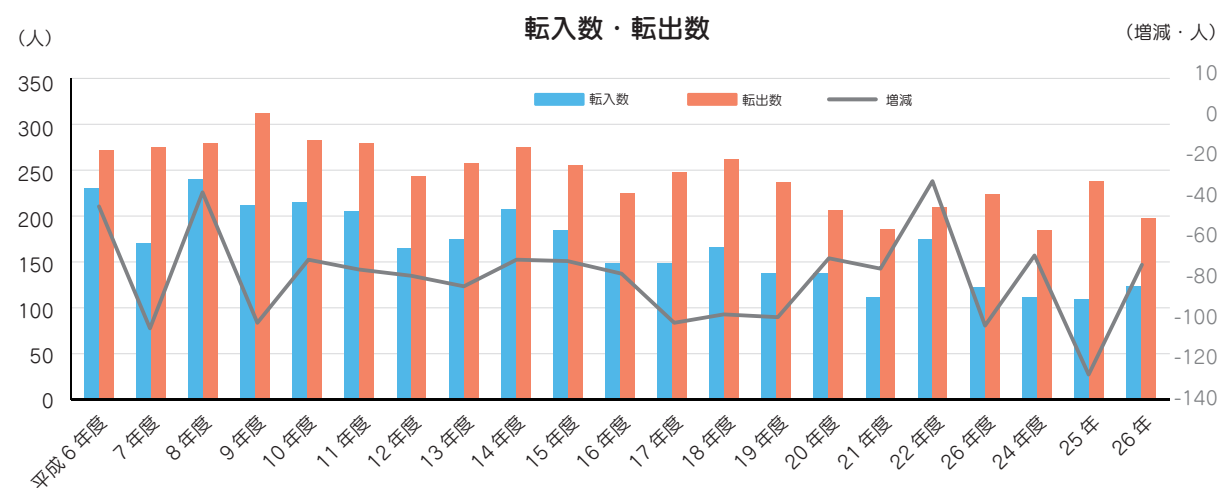
- ・平成 8 年以降は、死亡数が出生数を上回る自然減となっています。
- ・合計特殊出生率は、平成 24 年では 1.47 と国、北海道を上回っています。





3. 社会増減

・昭和 55 年以降、町外への転出超過が続いており、その主な要因は進学、就職に伴う札幌市や首都圏への転出と考えられます。

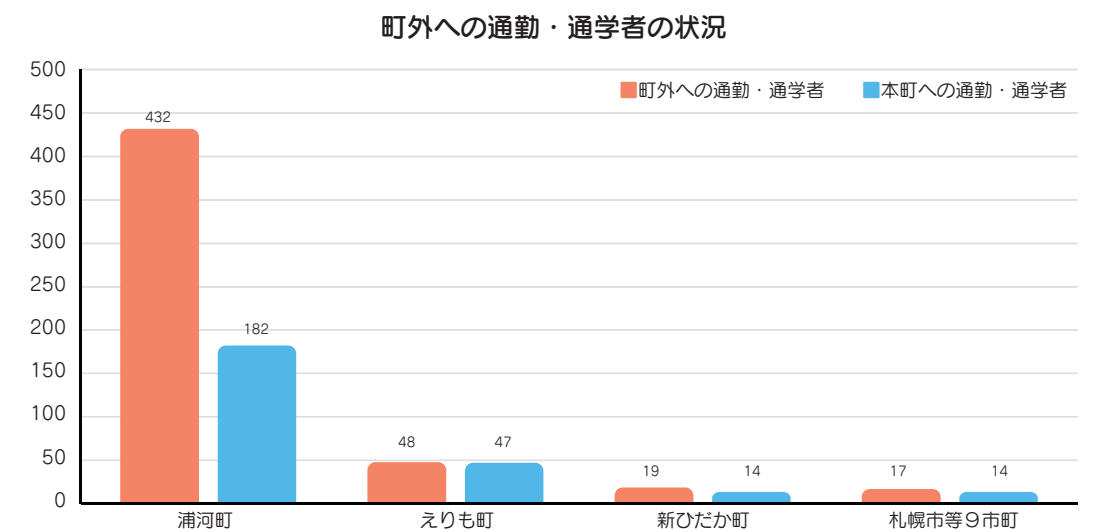


4. 通勤・通学者の状況

・町外への通勤・通学者が町内への通勤・通学者を上回っています。

昼間人口・夜間人口の推移

	夜間人口 A	他市町へ流出 B	他市町より流入 C	昼間人口 D = A - B + C	昼夜間人口比率 D / A × 100
平成 12 年	6,210	562	389	6,037	97.2
平成 17 年	5,711	531	328	5,508	96.4
平成 22 年	5,114	525	268	4,857	95.0



5. 産業別就業者割合の推移

・産業別就業者割合は、第一次産業ほぼ同数、第二次産業が減少し、第三次産業が増加傾向にあります。

